

民俗・芸能研究必携 待望の復刻版、稀観誌をクレス出版から刊行

俗民本日

行發會協俗民本日

小川 直之 監修・解説（國學院大學教授）

《A5判／上製函入／クロス装／C3339／定価 17,000円（税別）》

クレス出版

折口信夫主宰『日本民俗』の刊行

國學院大學教授・折口博士記念古代研究所 小川 直之

民間伝承研究が一部の識者ではなく、その志ある多くの人たちも参加できるようになるのは、これを掲載、集積する専門雑誌が刊行されるようになつてからである。現在の日本民俗学につながるこうした雑誌の始まりは、大正二年（一九一三）に柳田國男と高木敏雄が編集を行つた月刊誌『郷土研究』であった。これが大正六年（一九一七）に四卷一二号をもつて休刊すると、翌大正七年（一九一八）には、折口信夫が『土俗と伝説』を発刊する。しかし、これも刊行は四号で途絶える。その後、大正十四年（一九二五）には柳田國男を中心『民族』が発刊され、昭和初期には民俗藝術の会による『民俗藝術』、折口信夫を中心とする民俗学会の『民俗學』と続いていく。

研究雑誌発刊の動向として注目されるのが昭和十年（一九三五）で、この年には日本民俗協会による『日本民俗』のほか、民間伝承の会による『民間伝承』、渋沢敬三のアチックミニーゼアムの『アチックマンスリー』、関敬吾らによる『昔話研究』、日本民族学会による『民族学研究』が発刊される。なかでも柳田の還暦を期に開催された日本民俗学講習会を基にし、『民間伝承』を発刊する民間伝承の会は、昭和十二年（一九三七）には会員が一〇〇〇人を超える大きな組織になつていて、民間伝承への関心の高まりがうかがえる。

今回、複製版を刊行する『日本民俗』は、右のような動向のもとで発刊されている。これを機関誌とする日本民俗協会は、折口信夫による主宰で昭和九年（一九三四年）十二月に発足し、『日本民俗』は北野博美を編輯兼発行者として、翌十年八月に

第一号が発刊される。複製版の刊行は、從来からその存在は知られていたが、一号から三三号までの全号を所蔵する大学・公共図書館は稀で、その利用が困難であったのを解消し、民俗学や民俗芸能研究などの研究に資することを目的としている。『日本民俗』の内容は芸能分野を中心とし、各地に伝承されている芸能の調査記録・論述が掲載されるとともに、現在一般化している『民俗芸能』という用語はこの雑誌に初めて登場する。

②日本民俗協会などが主催した根子（秋田県）番樂・金砂（茨城県）田樂公演記録、

日本青年館の全国郷土舞踊民謡大会の曲目資料、黒川能の研究と公演記録、南部神樂（八戸市）公演記録、東北六県郷土舞踊大会記録など、民俗芸能公演の記録と資料を多く掲載する。

③芸能公演として特記できる昭和十一年（一九三六）の『琉球古典芸能』公演を詳細に掲載する。折口、伊波普猷、比嘉春潮、東恩納寛惇、小寺融吉などの執筆による、琉球芸能の内容・組踊（執心鐘入）台本、印象記、座談会記録、琉球芸能の論述などを掲載する。

④芸能分野のほか、今和次郎らによる民家研究を図入りで連載する。先にあげた昭和十年（一九三五）創刊までの民俗学関係の研究誌のうち、『日本民俗』は利用が困難であったが、複製刊行によつて、当時の研究動向や民俗芸能などの現況、詳細不明だった芸能公演内容が把握できるようになる。さらに日本民俗協会は、松本学を中心とする日本文化聯盟の傘下にあつて、昭和初期から戦中期における作家や芸術家なども含む幅広い文化団体とその活動の一端が、本複製版によつて捉えることができる。

復刻版

第1号（一九三五年八月）～第33号（最終号・一九三八年八月）――

- 第1号 民俗研究の意義 折口信夫／資料を生かせ 小寺融吉／神楽を見る外国人 西角井正慶／
民俗の採集 大藤時彦／野州栗山郷の獅子舞 菊池山哉／墓念仏の踊り座 櫻田勝徳
第2号 民俗研究の意義（続） 折口信夫／誤れる郷土研究の訂正 北野博美／狩猟者の生活 杉浦健一／飛騨山に遺る前代猶法 山田白馬

- 第3号 史学研究の上から 筑波藤麿／古典の新しい活し方 繪阿伽／弱法師 藤井春洋／紀州那智神社の田楽／相模共和村の神代踊り

- 第4号 第一回民俗芸能大会予記（解説・折口信夫、根子の番樂、金砂の田樂の紹介）／荒瀬村の話 杉浦健一

- 第5号 大会所感 折口信夫／東西金砂の田樂、西金砂の田樂／金砂の田樂を見て 本田安次／蛇足 北野博美

- 第6号 民俗研究の意義（続） 折口信夫／飛騨山に遺る前代猶法（続） 山田白馬／根つ子の番樂 本田安次

- 第7号 改年小記 北野博美／初春の行事から 辰井隆／飛騨山に遺る前代猶法（続） 山田白馬

- 第8号 「片手人形」の余孽 文楽に残る人形源流の痕迹 石割松太郎／ねずみなき—都会に残る民間伝承 北野博美／飛騨山に遺る前代猶法（続） 山田白馬

- 第9号 琉球国王の出自 折口信夫／新民謡に就て 小寺融吉／美作の護法祭 久米龍川／「琉球古劇」大会開催—附、琉歌・三味線・舞踊／「全國祭祀曆」の刊行 小寺融吉・北野博美

- 第10号 琉球国王の出自（続） 折口信夫／美作の護法祭（続） 久米龍川／日本青年館の全国郷土舞踊民謡大会の曲目 黒川能と 本田安次／盆行事／飛騨山に遺る前代猶法（続） 山田白馬／布久漏神社のひよこ祭・八朔行事

- 第11号 「琉球古典芸能」大会案内／筑後吉井地方の童謡 猶吉三光／美作の護法祭（続） 久米龍川／夏祭り採訪日安 太郎、小河内民家記 竹内芳

- 第12号 「琉球古典芸能」解説・組踊りの話 折口信夫、組踊の独自性 伊波普猷・台詞・隈・服装など 東恩納寛惇／琉球の村芝居 比嘉春潮／舞踊を見る方に 小寺融吉／てきすと（音楽、舞踊、組踊） 島袋全發

- 第13号 組躍台本・執心鐘入／琉球古典芸能の印象／琉球舞踊の足／七夕記事・筑後吉井地方の七夕 猶吉三光／武藏越ヶ谷の七夕 森村浅香／七夕を中心 北野博美

- 第14号 道徳の民俗学的考察 折口信夫／琉球古典芸能を語る（続） 伊波普猷・伊原宇三郎・片山春帆・佐藤惣三郎・坂元雪鳥 清水和歌・鹽入龜輔・谷川徹三・鳥居言人・中山晋平・昇曙夢・比嘉春潮・松本龜松ほか／黒川能（黒川紀行・西角井正慶・黒川能のこと） 齋藤香村、王祇祭と 黒川能と 本田安次／毛越寺の卒塔婆小町 小寺融吉／琉球の古典芸能を語る（続） 伊波普猷・比嘉春潮・鹽入龜輔・中山晋平／崔承喜を観る 博美／夏期採集帖から 辰井隆・森村浅香

- 第15号 民家研究（蚕室の形態） 今和次郎、小河内民家記 竹内芳 太郎、小河内民家実測図

- 第16号 談話会記事 折口信夫・北野博美／黒川能の「鐘巻」の型 多賀健太・北野博美・小寺融吉／琉球の古典芸能を語る（続） 坂元雪鳥・松本龜松・谷川徹三・昇曙夢 清水和歌・原田佳明・伊原宇三郎・片山春帆・武州間鹿子舞 鳥居言人／武州市田村の獅子舞 齋藤達夫／民家研究 中村寛・竹内芳太郎・藏田周忠・野瀬久一郎

- 第17号 日本芸能の海外紹介に就いて 北野博美／黒川能の大地踏と所仮則の型 本田安次／琉球の古典芸能を語る（続） 鳥居言人・松本龜松・片山春帆・伊波普猷・比嘉春潮・北野博美・折口信夫・小寺融吉・西角井正慶・歳末・年始の歌と唱へ言 辰井隆／民俗短信（狸と幽靈）・中鹽清之助・北野博美／黒川能と くじ祭り 新井恒易／民俗芸能台帳（出雲の神楽） 伊藤良吉・尾張天道新田の赤鬼祭り 水谷劍治／木の葉芸術の試み 丸山行雄、いろいろの記 博美／「日本祭祀曆」の出来

- 第18号 和歌山県伊都郡花園神社の御田神事（口絵解説）／田植歌二種 藤田徳太郎／田植歌問答 早乙女・太郎次／出雲仁多郡八川村の田植歌 杉浦健一／相州田名の的祭り 菊池山哉／言ひならはしの中から 山守晃三郎／民家研究・庄川系民家の調査 藤島亥治郎／談話会記事（幸の木、刈穂の庵、盆がま、女の月見、葬礼、誕生、厄除け）

- 第19号 さへのかみ祭りを中心に 折口信夫／談話会記事・暦を中心に（藤井貞文、穗積忠・高崎正秀・西角井正慶・菊池山哉・矢島清文・北野博美）／雁の童謡 猶吉三光／わざうたとして－兵法源流考の一節 北野博美／民家研究・民家研究私感・飛騨庄川系民家実測図 藤島亥治郎／黒川の王祇祭 齋藤香村／南九州見聞記 大森義憲

- 第20号 小河内村採訪記 北野博美／小河内の車人形 廣川清／こよみのはなし（会津曆 菅谷泰昌／南部のめくら曆 阿部秀三）／民俗芸能台帳（越後柏崎の神楽舞 桑山太市、薩摩の形人芝居）／民謡・童謡（秋田地方の田植唄 小玉曉村、八王子の堂搗唄 秋馬一昇 岩手の手鞠唄 伊藤小虎）／民俗短信（行基芭薩雪駆譚 辰井隆）

- 第21号 小留浦神楽の型（三番聖猿田の舞、鳥刺し、浦島、萬歳、神樂舞・四本剣、牛若、稻荷の種蒔、萬歳、曾我兄弟、おかめの御祈祷、愛護・喜三太の対面、虎狩り） 北野博美／千秋萬歳の詞章（撰津栗生の童謡 淺田茂／箱デコ調査要項 小寺融吉／雑錄（日本民俗学講座・神楽の会、恵那文楽鑑賞会）三多民謡大会・東洋音楽学会）

- 第22号 甲斐で発見した人形劇（天津司の舞） 小田内通久・淡路の人形芝居 山崎佐七／西ノ宮・淡路傀儡子に関する疑問 佐藤龍夫／小林六太夫座覚書 安田喜代門／民俗短信（初夏の採集から辰井隆）／探訪目安覚書・田植を中心 北野博美

- 第23号 越後彌彦神社の灯籠神事（行基芭薩雪駆譚 辰井隆）／民俗短信（行基芭薩雪駆譚 辰井隆） 渡嘉敷守良

- 第24号 八戸の南部神楽（郷土研究会公演に於ける南部神楽並びに（埼玉）玉敷神社の神楽・西角井正慶・南部神楽所感 小寺融吉／山伏芸と曲芸と怪火 中島繁男、越中の七夕 野上兵作）／琉球古典舞踊と講演の夕 琉球古典舞踊の夕 球古典舞踊の基本動作 渡嘉敷守良

- 第25号 東北六県郷土舞踊大会（東北六県民謡舞踊の会所見 北野博美、秋田の竿燈、福島県会津東山の盆踊り、山形県東村山郡長崎町達磨寺の田植踊り、同県大黒舞、宮城県宮城郡廣瀬村愛子の田植踊り、青森県八戸の駒踊り、宮城県本吉郡新月村早稻谷の鹿踊り、宮城県本吉郡鹿折村浪板の虎舞踊り、岩手県和賀郡岩崎村の鬼けんぱい、花笠踊りの型 原田佳明）

- 第26号 木地屋のはなし 折口信夫／「木地屋のはなし」に沿うて 菅谷泰昌／筑後瀬高の大人形祭と竹曲 宮武省三

- 第27号 木地屋のはなし 折口信夫／「木地屋のはなし」に沿うて 菅谷泰昌／筑後瀬高の大人形祭と竹曲 宮武省三

- 第28号 山のはなし 折口信夫／月見習俗（芋煮会・持丸輔夫、団子つき、藪重孝）／畠物盜み・守生／火の玉 中島繁男

- 第29号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第30号 日本研究の基礎学として 北野博美／農村慣習調査プラン 深谷進／劇場音樂の話・二 社寺音樂と下座音樂 望月太意之助／南鮮の移秧歌 宋錫夏／伊豆大島の民謡 山本靖民

- 第31号 ヤマといふ詞 野間吉夫／劇場音樂の話・二 社寺音樂と下座音樂 望月太意之助／南鮮の移秧歌 宋錫夏／伊豆大島の民謡 山本靖民

- 第32号 ヤマといふ詞 野間吉夫／劇場音樂の話・二 社寺音樂と下座音樂 望月太意之助／南鮮の移秧歌 宋錫夏／伊豆大島の民謡 山本靖民

- 第33号 民俗・信仰と時代 藤貞文／劇場音樂の話・三 下座音樂の発達と種類 湿美清太郎／南鮮の移秧歌（続） 宋錫夏／月見習俗（芋煮会・持丸輔夫、団子つき、藪重孝）／畠物盜み・守生／火の玉 中島繁男

- 第34号 日本研究の基礎学として 北野博美／農村慣習調査プラン 深谷進／劇場音樂の話・二 社寺音樂と下座音樂 望月太意之助／南鮮の移秧歌 宋錫夏／伊豆大島の民謡 山本靖民

- 第35号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第36号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第37号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第38号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第39号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第40号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第41号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第42号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第43号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第44号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第45号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第46号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第47号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第48号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第49号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第50号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第51号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第52号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第53号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第54号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

- 第55号 民家研究・東北地方の郷倉 今和次郎、ひごや 竹内芳太郎／筑前大宰府天満宮の秋祭と竹曲 宮武省三

日本民俗 復刻版 全1巻

小川直之 監修・解説

第1号（1935年8月）～第33号（最終号：1938年8月）完全収録

A5判／上製函入／クロス装／2017年8月25日刊行

定価 17,000円（税別） ISBN 978-4-87733-996-8 C3339

クレス出版 好評既刊書（定価はすべて税別）

庶民に伝承されてきた民間信仰に対して、学問的な探究を試みた貴重文献を集成

民間信仰論選集 全5巻 西村明 編・解説

第1巻 印度宗教史、比較宗教 迷信の日本 定価 20,000円 ISBN978-4-87733-925-8

第2巻 日本宗教史 定価 15,000円 ISBN978-4-87733-926-5

第3巻 民間信仰史 定価 16,000円 ISBN978-4-87733-927-2

第4巻 日本民俗学研究 定価 17,000円 ISBN978-4-87733-928-9

第5巻 民間信仰の話、神道思潮ほか 定価 23,000円 ISBN978-4-87733-929-6

揃定価 91,000円 ISBN 978-4-87733-930-2（セット）



近代の神道研究を大成させた宮地・西田・津田氏による六冊の著作を復刻する

神道研究選集 全6巻

第1巻 神祇史 定価 7,000円 ISBN978-4-87733-850-3

第2巻 続神祇史 定価 10,000円 ISBN978-4-87733-851-0

第3巻 神道史の研究 定価 10,000円 ISBN978-4-87733-852-7

第4巻 神道史の研究 第二 定価 20,000円 ISBN978-4-87733-853-4

第5巻 日本古典の史的研究 定価 16,000円 ISBN978-4-87733-854-1

第6巻 日本の神道 定価 10,000円 ISBN978-4-87733-855-8

揃定価 73,000円 ISBN 978-4-87733-856-5（セット）



戦時下に刊行された文学、武道、宗教、歴史、建築等に関する論集を全号復刻

日本文化 全10巻 日本国文化協会発行 井上順孝 解説

第一回配本 全7巻 第一冊～第六十三冊（昭和12年7月～昭和15年11月）

揃定価 95,000円 ISBN978-4-87733-488-8（セット）

第二回配本 全3巻 第六十四冊～第九十七冊

（昭和16年1月～昭和18年12月、昭和19年12月）

揃定価 50,000円 ISBN 978-4-87733-489-5（セット）



高田十郎の私家版資料集を全号復刻。柳田國男、南方熊楠の名も見られる貴重資料

なら—高田十郎雑記 全3巻 池田末則 解説

第1巻 第1号（大正9年8月）～第20号（大正12年8月）

第2巻 第21号（大正12年9月）～第40号（大正15年2月）

第3巻 第41号（大正15年3月）～第57号（昭和8年10月）

揃定価 48,000円 ISBN 978-4-87733-206-5（セット）



〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎ (03) 3808-1821 ☎ (03) 3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

●書店名



株式会社クレス出版